



伝統芸能・和田の杉並能楽堂



「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」この文章は誰もが学習し、多くの人が覚えている平家物語の始まりである。琵琶法師が日本全国津々浦々に行き、平家物語を琵琶演奏とともに語り、高家の人も庶民も耳を傾けたのが約800年の昔である。源平の戦いは武士の勃興の証であり、室町、戦国などを経て、250年にわたる江戸時代が始まった。平和の江戸時代は武士の支配する社会であった。日本人の生活様式や文化は室町時代に始まり江戸時代に定着したものが少なくない。茶道、華道、などが代表で私たちの生活の中に溶け込んでいる。また、日本人の生活における清潔感も養われたに相違ない。

新型コロナウイルス感染症の防止において、日本政府の措置の甘さや遅さ、定見のなさは諸外国から批判され、大流行が予測されたが、緊急事態宣言が発せられて以降、感染の陽性数は減少傾向をみせ、日本の不思議と評されるようになった。最近では国民性の成果を論評する向きもある。

伝統芸能の能、狂言、浄瑠璃、歌舞伎など平家物語を源流とした作品が少なくない。狂言の「奈須与市語」は平家物語の十一巻「那須与一」をもとに創作したもの。人間国宝・山本東次郎氏がこの作品を演じるかは存じ上げないが、協議会主催で和田の杉並能楽堂での狂言鑑賞の会が早く実現するのが待ちどおしい。